

vol.35

SPRING
2016

青森県立保健大学広報誌 活彩！保健大学だより

Campus Magazine

オープンキャンパス

平成28年8月7日(日)

10:00 ~ 15:00

(受付開始 9:30)

※予約制ではありません。多くの方の
ご来場をお待ちしております。

プログラム(予定)

- 学科紹介 ● 模擬講義 ● 展示コーナー
- 実習体験・実験コーナー ● サークル紹介
- 在校生による個別相談コーナー



優しい先輩たちと一緒に、
保健大学を先取り体験！



仲間と奏でるハーモニーは、大学生活の大切な思い出に...

大学祭

平成28年10月8日(土)

9日(日)

※どなたでもお気軽にお越しください！



お子さんからお年寄りの方まで、
みんなで楽しめます！



アクティブなイベントも、
盛りだくさんです！



ここには
いっぱい、
つまっているよ！

保護者等(後援会)懇談会

平成28年10月8日(土)PM



皆さんの
“見たい、知りたい”
が！



モーリーとリンリン®

平成27年度 卒業証書・学位記授与式

平成28年3月9日(水)

青森県立保健大学講堂において、学部卒業生222名、博士前期課程修了生8名、博士後期課程修了生3名に、卒業証書・学位記が授与されました。

今年度から本学では、卒業証書・学位記授与式にアカデミックガウンを着用することとなりました。これは、卒業生・修了生に専門職業人としてだけでなく、学問を修め学位を取得することへの自覚と責任をもってもらいたい、という思いから導入したものです。

上泉学長は式辞のなかで、「新しいステージに向け、ヒューマンケアの心を持ち、そして学位を得た自覚と責任をもって進んでほしいと願います。」との激励の言葉を卒業生・修了生に贈りました。卒業生・修了生の皆様、ご卒業おめでとうございませう。本学で学んだ数年間を糧にそれぞれのフィールドでご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



平成28年度 入学式

平成28年4月4日(月)

青森県立保健大学講堂において、平成28年度入学式が行われ、健康科学部・健康科学研究科あわせて252名の新たな仲間を迎えることとなりました。

これからの大学生活に期待を膨らませる新入生と、それを見守る保護者や来賓の方々、本学の教職員が待ち受ける中、ステージの幕が上がリ、開式の辞が述べられました。

新入生の名前が一人ひとり読み上げられ、緊張と期待に満ちた声で返事をする新入生の姿が印象的でした。全員の入学が許可された後、上泉和子学長から、新たな大学生活への励ましと、昨年からの本学で

取り組んでいる健やか力(ヘルスリテラシー)向上をサポートする役割を地域社会において担ってほしいとの期待の言葉が述べられました。入学生代表宣誓では、會津花乃子さん(看護学科1年生)が新入生を代表して、夢の実現と社会に貢献できる人材となるため日々成長することを誓いました。

新しい仲間を迎えての新たな1年が今年も始まります。本学で積んだ経験の一つひとつが、数年後の大きな成長と夢の実現へと繋がっていく、その一歩を踏み出した記念日であることを感じさせてくれる入学式でした。



新入生宿泊研修

平成28年4月9日(土)、10日(日)



学生自治会長 永井 肇

学内及び青森県平川市の南田温泉ホテルアップランドにおいて、新入生宿泊研修を実施しました。この研修は新入生が同級生・上級生・教職員と交流することで、不安や悩みを解消し、新しい大学生活を円滑に過ごせるよう支援することを目的としています。

今年は学生自治会役員と各学科の上級生合わせて30名が研修サポーターとして参加しました。全体演習では、看護学科の教員による講演の他、栄養学科の上級生による食生活をテーマにした学生目線の講演もあり、新入生は

じめ上級生・教職員も楽しそうに聞いていました。学科別自由討論では上級生が中心となり、様々なテーマで話し合いを進め、新入生の興味関心のあることや不安に思っていることに対して丁寧にアドバイスをしていました。また、レクリエーションでは、クイズやゲームで学科の枠を越えた交流をしながら、新しい学友との出会いを楽しんでいました。

この研修で新入生の皆さんが、充実した大学生活の第一歩を踏み出し、これからの4年間をより良いものにしてもらいたいです。



全体演習



学科別自由討論



レクリエーション



トランプで盛り上がる男子



自炊がんばっています



“Happy Birthday Dear 4月” 熱唱中
4月誕生会

平成28年度 学生寮

レジデントアシスタント一同

今年度、あすまし寮では92名の新寮生と寮経験者から選ばれた2年生4名のレジデントアシスタントの計96名が寮生活を送っています。多くの学生が生活しているこの寮では、学科や住んでいる階を超えての交流を図るため、年に数回ほど寮全体でのイベントが行われています。また、今年度からは老人ホームの利用者さんを招いてのレクリエーションなど、地域の方々と寮生とが交流する機会をつく

る予定です。日々の寮生活やこのような様々なイベント等を通して、寮での1年間がそれぞれの寮生にとって実りのあるものになればと思います。

レジデントアシスタントとして私たちは、これから1年間、事務局職員の方々や寮母さんをはじめとする寮の関係者の方たちと共に、皆が心地よく過ごせる寮づくりに努めていきたいと思っております(レジデントアシスタント兼寮長 目黒 佳緒莉)。



平成28年度レジデントアシスタント委嘱式にて

(写真右側から)
寮長 社会福祉学科2年 ……目黒 佳緒莉さん
副寮長 看護学科2年 ……中居 桃子さん
会計 社会福祉学科2年 ……伊藤 美佳さん
会計 看護学科2年 ……坂井 美香さん

新入生の近況報告

看護学科



外崎 絢佳

大学に入学して、早くも1か月が経ちました。最初は不安ばかりでしたが、徐々に学校に慣れ、今では大学生活を楽しんでいます。

4月の初めにあった新入生研修が不安解消の大きなきっかけになりました。履修登録やテスト、勉強方法など分からない事を先輩方に聞き、様々なアドバイスを頂く事が出来ました。また、新入生同士で交流を深め、友人の輪を広げる事も出来ました。導入時教育は、普段の生活から気を付けるべき事を再確認する良い機会になりました。

現在は、4学科共通科目と共に看護の専門的科目の講義を受けています。保健師になりたいという夢を叶えるために、1つ1つの講義や実習を大切に、看護の正しい知識と技術を身に付けていきたいです。

大学では高校よりも自由な時間が沢山あります。バイト、サークル、ボランティア活動に積極的に参加し、時間を最大限に活用したいです。そしてこれから4年間、充実した学生生活を送れるように頑張ります。

理学療法学科



吉川 遙

私はこの春に東京からここ青森に来ました。

入学試験の日、初めて経験する吹雪の中で「こんな慣れない場所やっていけるだろうか。」と不安を感じたことを覚えています。しかし、入学してから約1か月、目まぐるしく変わる生活形態に慣れようと四苦八苦しつつも、新しい環境で新しい友人と新しい経験ができるという期待によって、不安はすぐにはなくなりました。また、4学科共同の授業やサークル活動など、学年も学科も関係なくさまざまな人と関わりが持て、毎日たくさんの刺激を受けています。

これから4年間、学業に励みつつもアルバイトやボランティア活動、留学など学生のうちにしかできないことにも積極的に取り組んでいこうと思っています。また、多くのことを吸収していく中で人として、理学療法士の卵として成長できる有意義な学生生活にしたいと思います。

社会福祉学科



神永 彩那

青森県立保健大学に入学して1か月が経ちました。初めての青森での生活にも少しずつ慣れてきて、忙しいながらも充実した毎日を送っています。寮生活やサークル活動、4学科共同の講義・演習を通じて他学科の友人もできました。4学科共同のグループワークでは他の専門分野の視点や自分以外の友人の意見から視点を広げることができ、入学してから改めて4学科共同授業の良さを実感しています。また、高校時代から興味を持っていたソーシャルワークについての学びには特に力を入れています。ソーシャルワーク論などの日々の講義から得る新しい知識の習得にとてもやりがいを感じています。将来は精神保健福祉士として、精神疾患を抱えて悩んでいる方々の力になれるように、大学4年間で知識や経験を身につけていきたいと思っています。

栄養学科



三浦 小菜実

4月に大学へ入学してから1か月が経過しました。入学したての頃は同じ高校出身の人はなく、また大学の授業についていくことが出来るのかと不安なことばかりでしたが、同じ学年の人とすぐ打ち解け、互いに切磋琢磨しながら、学習に励んでいます。

それに加え、青森県立保健大学では4学科共通科目やサークル等を通して、同じ学科の先輩方や他学科の学生と接する機会もかなり多く、とてもアットホームな大学だと感じました。このような教育環境の中で、将来保健医療福祉分野で各々チームを組むだろう人たちと学生のうちに様々な形で関わりを持つことができるのは貴重な体験だと強く思っています。

これから4年間勉強など大変なことばかりだと思いますが、この大学で相手の心に寄り添うことの出来るような管理栄養士に成るべく、大学で様々なことを吸収し、日々を楽しんでいきたいです。

学生生活サポート

学生を支援する体制について



学生部長
杉山 克己

大学生に求められるのは「強(し)いて勉(つ)める」勉強ではなく、自発的主体的に学ぶことです。そして「上手に」学んでいくためには、良いカリキュラムや講義が揃っていることはもちろん、学生自身の心身の健康や生活の安定などもとても重要です。保健大生として、まずは自分自身のより良い健康や生活の安定を自ら目指していけるようになることが重要です。

その為に、本学では、入学直後から始まる導入教育や宿泊研修などの各種プログラム、チューター制や担任制などのきめ細やかな支援体制、そして保健室やカウンセラー室、さらに学生支援の性格を持った寮などを整備しています。これらを通じて、ゴミ出しルールなど身近な日常生活に関する事柄から、自分の将来に関わるような事柄など多様な相談支援を行っています。

学生の心とからだを支えています - 困ったときはとりあえず《保健室へ》 -

体のこと...	食欲がない。眠れない。体がだるい。咳が止まらない。過呼吸気みになる。など
心のこと...	やる気がおこらない。気持ちが折れる。イライラする。だまっても涙があふれ出る。自分の性格に悩む。孤独感。など
対人関係...	友だちとうまくいかない。集団の中にいると疲れる。人前だと緊張してしまう。相手の言いたいことがわからない。孤立してしまう。恋愛問題。など
学業一般...	勉強の仕方がわからない。休学や退学のこと。単位や履修のこと。集中が続かず課題がこなせない。レポートの書き方がわからない。時間内にノートがとれない。など
生活全般...	家庭・経済上の問題。下宿・アパートの問題。サークルやアルバイトの問題。雑音が気になる。音が聞きづらい。物が見えづらい。段差・階段利用が困難。など
諸勧誘や迷惑行為...	悪質商法。宗教まがいの活動。インターネットの被害。など

毎日の困りごと、心配な事、どこに相談したらいいのかわからないことでもとりあえず話してみませんか？

手だてはきつとあるはず。一緒に考えることで何かが変わるはず。保健室を窓口にして、困りごとによっては、カウンセラーや学科の

教員に、ときには教務学生課に相談したり、つなげたりと個人情報に配慮しながら進めていきます。周囲のサポートを上手に受けながら、大学生活を実りあるものにしていきましょう。

※学生相談は週1回11時～15時、臨床心理士の岩田彩子さんがC棟1階のカウンセリング室に待機しています。(相談日は管理棟の保健室掲示板に掲載しています) 利用したい人は、保健室が窓口になっていますので、声をかけてください。

看護学科



母性看護援助論

母性看護援助論では、妊産婦や新生児のヘルスアセスメントおよび看護について必要な知識や技術を習得します。



実践基礎看護技術I

基本的な観察の技術として、患者さんのバイタルサイン（体温、脈拍、呼吸、血圧）の測定方法を学んでいます。



看護学科長
鳴井 ひろみ

移行期を乗り越えるために

看護学科は、看護の専門職である「看護師」「保健師」「助産師」を養成する学科であり、人間の生涯にわたる健康生活のニーズやその社会的ニーズの変化に対応できる人材を育成します。看護学科では、1 学年 100 名以上と大変多いため、担任制とチューター制を導入し、学生を見守れるようサポート体制を強化しています。

大学生の年代は、生徒から学生・大人への移行の時期であり、不安定な時期でもあります。そのため、いろいろなことに悩みや迷いを抱きやすい時期ですので、ぜひ、家族とのコミュニケーションを大切にいただければと思います。看護学科では、保護者および地域の皆様、同窓生の皆様とともに手を携えて人間性豊かな人材を育成し、地域の人々の健康に寄与できるよう支援していきます。

平成 27 年度卒業生 近況報告



十和田市立中央病院
看護師
長瀬 朗

私は整形外科の病棟で勤務しています。現在はオリエンテーションなどを通して病棟で働くために必要な知識や技術を学んでいます。慣れないことも多く毎日が大変ですが、充実した日々を送っています。保健大学では講義や演習や実習などを通して知識や技術を深めていきますが、その中で最も重要だと実感したのは病棟での実習でした。実際に勤務する医療従事者の方と同じ時間で活動することで、一日の病院の流れや他の職種連携などを知ることができます。また実際の患者さんにケアを実施することができるのは他では体験できないことです。患者さんが何に対して苦しみ悩んでいるのか、それに対してどのようにかわりをすればよいのか考え、適切なケアを実施することはとても難しいことでした。しかし教員の方々からアドバイスなどをいただいたり、仲間同士で相談しあったりすることで学びを深めることができました。

在学生のみなさん、実習や講義など色々大変なことも多くあると思いますが、あきらめることなく、お互い助け合って乗り越えていただければ幸いです。また学生最後の 4 年間勉強だけでなく、様々なことに積極的に挑戦して行ってほしいです。卒業後みなさんに職場で会うことを楽しみに思っています。

在学生のみなさん、実習や講義など色々大変なことも多くあると思いますが、あきらめることなく、お互い助け合って乗り越えていただければ幸いです。また学生最後の 4 年間勉強だけでなく、様々なことに積極的に挑戦して行ってほしいです。卒業後みなさんに職場で会うことを楽しみに思っています。

理学療法学科



理学療法評価学実習

理学療法を必要とする患者の状態を知るための基本的な検査法や測定の手技を学びます。問題点を把握し、治療プログラムを立案するための第一歩となります。



日常生活活動動作実習

障害を有する人が日常生活で不可欠な食事や移動などの基本的動作を行う場合の支援や動作方法の指導法を修得するための実習を行っています。



理学療法学科長
岩月 宏泰

理学療法学科の特長

本学科では1学年 30 名の定員に対して、医師、理学療法士などの専任教員が最先端の医学、理学療法学理論及び技術の実践について指導しています。また、学年担任制をとっているため、担当教員は学部生の様々な相談に親身に応じており、学生生活支援にも力を入れています。さらに、理学療法についての臨床能力を高めるために、教材開発、演習形式の授業の展開、臨床実習の充実などの取り組みも実施し、効果を挙げています。このように本学科では、学部生が将来理学療法士として、地域でヒューマンケアに根ざした理学療法を展開できるよう情熱的に指導するほか、大学院教育も充実させており研究活動にも積極的に支援しています。

平成 27 年度卒業生 近況報告



社会医療法人明和会
理学療法士
丸岡 翔太

はじめまして！理学療法学科 14 期生の丸岡翔太です。私は卒業後、秋田県の社会医療法人明和会で同級生の濱谷航君と共に理学療法士として働いています。明和会では新人ローテーション研修制度が導入されており、配属先を異動し急性期から維持期、訪問まで幅広い理学療法を働きながら学ぶことができます。また、現職場の中通りハビリテーション病院はリハスタッフの人数も多く賑やかな職場で楽しく充実した毎日を送っています。忙しい学生生活だとは思いますが、ぜひ積極的に取り組んでほしいと思います。後輩の活躍を応援しています。

※写真は向かって右が丸岡さん、左が濱谷さんです。



社会福祉学科



社会福祉学概論

ソーシャルワーク演習I

社会福祉学科では講義・演習・実習を通じて、ソーシャルワーク実践に必要な知識や技術を学んでいきます。写真はともに、1年次の必修科目を受けている学生の様子です。1年生から施設等での実習や青森県鏑ヶ沢町でのフィールドワークを行っており、その準備も始まります。



社会福祉学科長
大山 博史

社会福祉学科の「学び」

社会福祉学科では、社会福祉の専門家として必要な知識と援助の技法を広く学ぶことができます。国家資格である「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の養成も担っており、両者とも国家試験合格率は全国でトップクラスを維持しています。本学科の就職率も非常に高い水準にあり、卒業生は福祉、医療、行政等の現場で活躍しています。

本学科の講義や演習は、少人数制の特徴を生かして、段階的に、無理なく進められておりますので、授業へ積極的に参加することにより、確実に学びを深めることができます。また、本学科では、専門分野を生かして地域に貢献している教員が多いことも特徴です。これらの教員の指導の下、学生自身が3年生から卒業研究を進めており、そこで、社会福祉のグローバルな知見を実際に地域に生かしている活動について研究しています。

保護者や同窓生の皆様、地域の方々には、今後も社会福祉学科へのご支援をお願い申し上げます。

平成27年度卒業生 近況報告



医療法人明理会
イムス富士見総合病院
木下 睦美

4月より埼玉県にある急性期病院でMSWとして勤務しています。

現在、仕事は主に上司に教わりながらスクリーニングを行っています。仕事を通して実感したのは、大学の講義や演習、実習で学んだ知識や経験が今に直結しているということです。大好きな地元である青森での学びが埼玉でも通用することに喜びを感じると同時に、大学や実習でお世話になった先生方や実習指導者様へ感謝する毎日です。尊敬する上司や共に頑張っている同期と忙しくも充実した日々を送っています。これからも精進していきたいです。

栄養学科



給食経営管理実習

回転釜を使用して、ほうとう風うどんの調理をしています。



食品学実験I

タンパク質、糖の定性反応を行い、タンパク質・アミノ酸の種類、糖の種類による反応の違いを見えています。



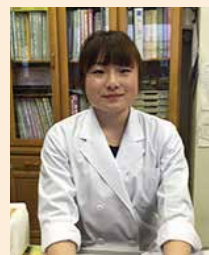
栄養学科長
今 淳

栄養専門職は正に天職です。我々教員は責任をもって学生諸君を鍛えます。

適切な量と質の食物を経口摂取し、消化・吸収及び代謝が正常になされている場合に、私達は健康を維持できます。しかし、このプロセスのどこかに異常を来すと、病気に陥って死に至ることになります。このような状況では、たとえ医師から最高の医療を受けても、もはや完治は望めません。では、この問題を

解決してくれるのは一体誰なのでしょう。管理栄養士などの栄養専門職者。それが答えです。栄養専門職者こそ、このプロセスを完璧に是正でき、疾病の治療・予防、健康保持のための基盤を私達の体内に築き上げることができる唯一のプロなのです。この基盤ができてこそ医師による治療が功を奏するのです。基盤ができていなければ治療は砂上の楼閣であり、脆くも崩れ去ってしまいます。即ち栄養専門職は私達の命の源を司っており、正に天職なのです。栄養専門職を目指す学生諸君は、このことを決して忘れず、誇りと気概をもって頑張してほしいと思っています。そのために私達教員は、学生諸君が最高のレベルの能力を身に付け、将来、最高のレベルの医療を提供できる栄養専門職へとなるよう、責任をもって徹底的に厳しく鍛えることを約束します。志を持つ多くの学生諸君が決して挫折せずに精進し、青森県、日本、そして世界の中心へと飛躍して行くことを大いに期待しています。

平成27年度卒業生 近況報告



介護老人保健施設
ヴィラ弘前
楠美 希恵

私は管理栄養士として介護老人保健施設ヴィラ弘前で働いています。仕事内容は、選択食の聞き取りと厨房への申し送り、食数管理、食事介助、おやつ配膳、デイケアの栄養アセスメント等です。

覚えることが多く間違えることもあります。先輩方のご指導のもと日々頑張っていますが、利用者の方と触れ合う機会が多く、楽しく充実した日々を過ごしています。

今後は、早く仕事を覚えて一人前になり、他職種の方々から信頼される管理栄養士になりたいと思っています。

青森県立保健大学後援会より



後援会会長
大澤 琢哉

後援会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度より後援会会長を務めさせていただくことになりました大澤です。

本学は開校より18年目を迎え、建学の理念である「ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな人材の育成」のもと、実践的な社会人育成に向けた専門性の高い大学として着実にその存在感を高めてきております。

後援会では、新入生研修や学生の福利厚生、大学祭やサークルなどの活動、卒業研究の助成等、学生が大学に入学してから卒業するまでのさまざまな場面で学生に対する支援を行っております。

後援会会員の皆様のご理解とご協力のもと、後援会では、これからも学生の成長を温かく見守っていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

平成28年度 青森県立保健大学後援会役員名簿

会 長
副会長
理 事

大澤 琢哉 (理学療法学科 3年)
藤田 義幸 (看護学科 4年)
大坂 大 (社会福祉学科 4年)
高田 一憲 (栄養学科 4年)
岩崎 久暢 (看護学科 3年)
山本 道弘 (看護学科 1年)

理 事
監 事
顧 問

工藤 明子 (理学療法学科 1年)
伊藤 美香 (社会福祉学科 1年)
中村 純子 (理学療法学科 2年)
石川 武 (栄養学科 3年)
杉山 克己 (学生部長)

※()内は在学中の学生(お子様)の学科及び学年です。

後援会 決算、予算

平成27年度 後援会決算書

(収入の部)				(単位:円)
項 目	予算額(A)	収入額(B)	比較(B-A)	摘 要
1 会費収入	11,957,500	11,907,500	△ 50,000	@50,000×229人(学部学生) @25,000×5人(編入学生:看護) @37,500×1人(編入学生:社福) @37,500×2人(編入学生:栄養) @20,000×11人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	20,928,054	20,928,054	0	
3 雑収入	2,003	3,408	1,405	預金利息等
合 計	32,887,557	32,838,962	△ 48,595	

(支出の部)				(単位:円)
項 目	予算額(C)	支出額(D)	比較(D-C)	摘 要
1 会議費	81,000	36,000	△ 45,000	後援会総会・理事会等出席に係る役員の交通費
2 事務費	100,000	101,400	1,400	保護者等懇談会の開催案内発送費
3 事業費	11,676,000	10,771,108	△ 904,892	
(1)サークル活動助成費	1,393,000	1,343,496	△ 49,504	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,324	324	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	145,000	125,580	△ 19,420	大学広報誌(年2回)後援会負担分
(4)学生福利厚生費	2,081,000	1,549,276	△ 531,724	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用
(5)国際交流助成費	25,000	0	△ 25,000	
(6)就職対策費	320,000	216,704	△ 103,296	4年生対象ガイダンス、3年生対象ガイダンス
(7)卒業関係助成費	3,645,000	3,530,324	△ 114,676	卒業関連事業助成、卒業研究助成、特別・課題研究助成
(8)新入生研修費	2,517,000	2,470,540	△ 46,460	新入生に対する学内研修及び学科別交流に要する昼食代等
(9)その他	50,000	34,864	△ 15,136	大学院生関連事業
4 予備費	100,000	21,924	△ 78,076	慶弔費
小 計	11,957,000	10,930,432	△ 1,026,568	
5 次年度以降事業費	20,930,557	21,908,530	977,973	
合 計	32,887,557	32,838,962	△ 48,595	

※次年度への繰越金 21,908,530円(総収入 32,838,962円 - 総支出 10,930,432円)

平成28年度 後援会予算書

(収入の部)				(単位:円)
項 目	(A)27年度予算	(B)28年度予算	比較(B-A)	摘 要
1 会費収入	11,957,500	11,940,000	△ 17,500	学部生 @50,000×230人(前年比概算) 編入生(看護)@25,000×5 編入生(社福)@37,500×1 編入生(栄養)@37,500×1 大学院生 @20,000×12
2 前年度からの繰越金	20,928,054	21,908,530	980,476	
3 雑収入	2,003	3,408	1,405	預金利息等
合 計	32,887,557	33,851,938	964,381	

(支出の部)				(単位:円)
項 目	(C)27年度予算	(D)28年度予算	比較(D-C)	摘 要
1 会議費	81,000	77,000	△ 4,000	後援会総会・理事会等出席に係る役員の交通費
2 事務費	100,000	100,000	0	保護者懇談会開催案内等送料他
3 事業費	11,676,000	11,711,000	35,000	
(1)サークル活動助成費	1,393,000	1,393,000	0	自治会活動費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	145,000	145,000	0	「活彩!保健大学だより」作成・発送費の後援会負担分
(4)学生福利厚生費	2,081,000	2,061,000	△ 20,000	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用
(5)国際交流助成費	25,000	50,000	25,000	国際交流に係る経費
(6)就職対策費	320,000	320,000	0	4年生対象ガイダンス、3年生対象ガイダンス
(7)卒業関係・国家試験対策関係助成費	3,645,000	3,675,000	30,000	卒業関連事業助成、卒業研究・国家試験対策助成、特別・課題研究助成
(8)新入生研修費	2,517,000	2,517,000	0	新入生の学外での宿泊研修に係る宿泊費等
(9)その他	50,000	50,000	0	大学院生関連事業
4 予備費	100,000	52,000	△ 48,000	
小 計	11,957,000	11,940,000	△ 17,000	
5 次年度以降事業費	20,930,557	21,911,938	981,381	
合 計	32,887,557	33,851,938	964,381	

退職・新任の教員から 一言メッセージ

退職

社会福祉学科

●アラン ノールズ

I have found in Aomori a quality of life and a warmth of heart which have made me feel at home here, and I am grateful to my colleagues for all their support during my 17 years at AUHW. I have always admired the sound values and good sense of our students. These young people are the future of Japan, and I am heartened by their generous spirit. I am looking forward to continuing to teach at AUHW as 特任教授.

看護学科

●大井 けい子

新任

看護学科

●福岡 裕美子

4月1日に着任いたしました。専門は老年看護学です。高齢社会の中、高齢者の方々が健やかに心穏やかに暮らしていくために看護ができること、するべきことを学生さん方と考えていきたいと思っています。

●大村 倫子

4月に着任致しました母性・助産コースを担当します大村と申します。青森県の出身ですが人生の半分以上は県外の生活でした。八甲田山の美しい姿を見ると感慨深いものがございます。県の出身者が首都圏や日本各地で活躍しています。その方々が青森県に戻って活動できる場を開拓できたらと思います。また、青森県のお産の事情や、県内はもとより日本の助産師不足を少しでも改善できるよう考えたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

●谷川 涼子

4月から小児看護学領域に着任いたしました。今まで青森県の職員（看護師）として働いておりました。長い臨床経験を活かし、学生の皆さんが楽しく充実した大学生活が送れるように支援したいと思っています。よろしくお願いたします。

●千葉 武揚

今年度より着任いたしました千葉武揚（ちばたけあき）です。16年間、看護師として病院に勤務し、その殆どを救命救急センターで過ごしました。新たな場所で、学生の皆さまと共に育ちあっていけたらと思っています。よろしくお願いたします。

●石田 徹

4月より着任いたしました看護学科（精神看護学領域）助教の石田徹と申します。初めての青森で、ピカピカの“青森1年生”です。不慣れな点多々あるとは思いますが、よろしくお願いたします。

理学療法学科

●新岡 大和

15年ぶりに青森に戻りました。今後、故郷である青森県の保健・医療・福祉に微力ながらも貢献できるよう、与えられた環境の中で一層精励する所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

●木村 文佳

青森県内で理学療法士として勤務してきました。本学の卒業生でもあるので、新人教員として、先輩として、学生達の力になりたいです。よろしくお願いたします。

社会福祉学科

●小山内 豊彦

青森県で企画政策部長を務めていました。県では、人口減少対策、短命県脱却のため様々な事業を展開してきましたが、今度はここ保健大学で、より現場に即したかたちで取り組んでいきたいと思っています。どうか、よろしくお願いたします。

●村田 隆史

2015年9月に着任した村田隆史と申します。講義では社会福祉学概論、社会保障論、公的扶助論等を担当します。研究と教育の両面で、学生さんと一緒に成長していきたいと思しますので、よろしくお願いたします。

栄養学科

●秦 希久子

4月より実験・実習助手に着任しました。東北地方での生活は初めてであり、青森の文化にふれることが大変楽しみです。これまで管理栄養士として働いてきた実践経験を活かして実験・実習をサポートできるよう努力してまいります。

ヘルスリテラシーコラム



ヘルスリテラシー推進特命部長
大西 基喜

本学ではヘルスリテラシー推進事業を平成27年から本格的に取り組みを始めています。大学をあげて、住民のヘルスリテラシー向上に取り組むという稀有なチャレンジでもありますが、このことはヒューマンケアの人材育成をめざす本学の使命と基本的によくマッチした試みと考えています。

昨年度は、「健やか力（HL）向上サポート宣言」を行い、引き続きスタートアップフェスタを開催、またヒューマンケア学会や公開講座等で積極的に取り上げました。

さらに学生や教職員による住民支援の事業や研究、大学院の新カリキュラム編成への反映、大学祭のイベントにも関連のコーナーを設けるなど、多角的に取り組みました。年度末には関連ホームページ、リーフレットの作成を行うなど、広報も徐々に力を入れています。

今年度も昨年度同様の種々の活動に加え、平成29年度からの新カリキュラム編成に向けて、人材育成を見据えた活動を強化していく予定であります。

平成28年度 年間スケジュール

4月	5月	7月	8月	9月	10月	11月	2月	3月
	公開講座					12月		
入学式	6月			集中講義 後期スタート (9月末)		広報誌 (第36号) 発送	集中講義	
	広報誌 (第35号) 発送	前期試験	オープンキャンパス(8/7)		保護者等(後援会)懇談会(10/8)	1月		
						後期試験		

国家試験合格率

看護学科

看護師 **99.1%**

(合格者 107 名 / 受験者 108 名)

保健師 **100%**

(合格者 34 名 / 受験者 34 名)

助産師 **100%**

(合格者 5 名 / 受験者 5 名)

理学療法学科

理学療法士 **94.1%**

(合格者 32 名 / 受験者 34 名)

社会福祉学科

社会福祉士 **92.3%**

(合格者 36 名 / 受験者 39 名)

精神保健福祉士 **84.6%**

(合格者 11 名 / 受験者 13 名)

栄養学科

管理栄養士 **90.3%**

(合格者 28 名 / 受験者 31 名)



社会福祉士合格率が
90%を超えたのは
大学初なんだって!

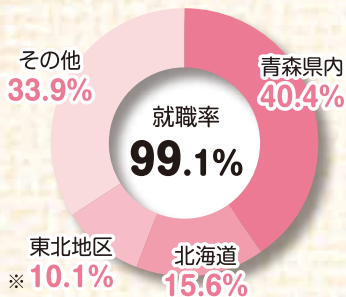
14 期生社会福祉学科の合格率は

全国第1位でした。

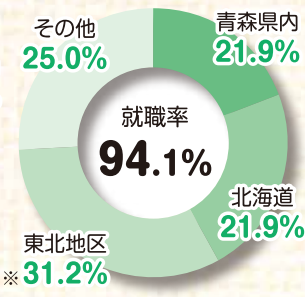
※受験者 30 名以上の学校 98 校中

就職率

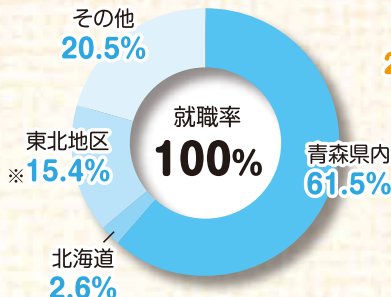
看護学科



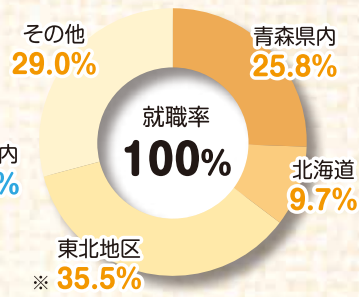
理学療法学科



社会福祉学科



栄養学科



※青森県以外の地区

今年の就職合同説明会

- 県内就職合同説明会(看護・社会福祉・栄養学科対象)
平成28年5月14日(土) 13:00~16:00 本学交流センター
- 県外就職合同説明会(看護・社会福祉・栄養学科対象)
平成28年6月18日(土) 13:00~16:00 青森産業会館
- 理学療法学科対象就職合同説明会
平成28年7月23日(土) 13:00~16:00 本学交流センター

昨年の就職合同説明会

- 県内就職合同説明会
(看護・社会福祉・栄養学科対象)
平成27年5月16日(土)
本学交流センター
- 県外就職合同説明会
(看護・社会福祉・栄養学科対象)
平成27年6月13日(土)
リンクステーションホール青森



COC+事業 「女子学生のキャリア支援プログラム」のご紹介

平成27年から、弘前大学が「オール青森で取り組む地方人財育成・定着事業」を展開されています。この事業には、県内の主な大学・県・市が参加しており、本学も協定を締結致しました。

本学は、この中で「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」のリーダー校として、他大学とともに事業に取り組んでいます。女性は職業、勤務する場所、仕事を続けるか等を決めるにあたり、仕事と生活とのバランスで悩み、困難を抱くことが多い現状にあります。私たちは、学生が自身の働き方や生き方、将来の社会構造について適切、かつ具体的なイメージを持ち、その上で、青森県や地元への就職を望み、希望する生き方・働き方をしながら定着することができれば理想的であると考えています。今後、学生に向け、または企業や病院等に向け事業を展開していく予定となっておりますので、ご注目頂けますと幸いです。



大学院への誘い



大学院健康科学研究科長
吉池 信男

大学の両輪は「教育」と「研究」です。両者をつなぐ役割を「大学院」が担っています。本学の大学院の特徴として、4つの学科を基盤とする保健・医療・福祉分野の専門職の方(卒業生も多数います)が、高い専門性や研究を通じた課題解決を目指し、実践の場で働きながら学んでいることがあります。さらに、専門分野を超えた連携により研究を

深めることで、新しい課題にチャレンジ出来るのも本学ならではの魅力です。

また、学部での4年間のうちに、各研究室で教員や大学院生とともに研究を行うことも、皆さんにとってたいへん貴重な経験となるでしょう。大学院でどのような研究が行われているか、是非関心をもっていただきたいと思います。

※平成29年度から新カリキュラムによる教育を開始する予定です。その詳細や年2回の入学者選抜(10月、2月を予定)については、7月上旬にホームページや大学院案内でお知らせするとともに、オープンキャンパスでもご案内いたします。

発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学